



## 第64期 報告書

2010.3.1 ▶ 2011.2.28

株式会社 オンワードホールディングス

証券コード 8016



代表取締役会長  
廣内 武



代表取締役社長  
水野 健太郎

## 株主の皆様へ

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

このたびの東日本大震災により被災された株主の皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

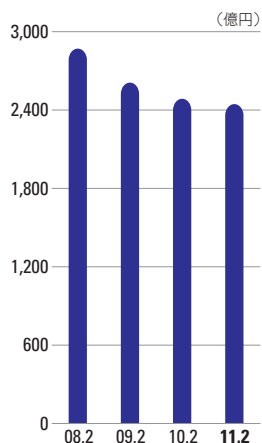
2011年2月28日をもちまして、第64期の事業年度を終了いたしました。ここに第64期報告書をお届けし、事業の概況等につきましてご報告申し上げます。

当社グループは、「人々の生活に潤いと彩りを与えるおしゃれの世界」を事業領域に定め、「ファッション」を生活文化として提案することによって新しい価値やライフスタイルを創造し、人々の豊かな生活づくりへ貢献することを経営理念としております。

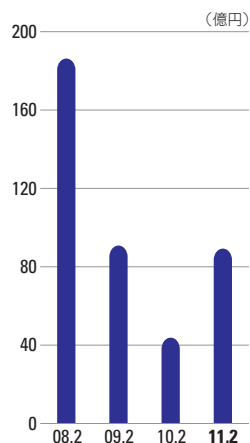
基本的施策として、当社グループはブランドを基軸とした経営により「ブランド価値」を高め、お客様にご満足いただける商品・サービスを提供していくことで、事業拡大と収益向上をめざしてまいります。

株主の皆様には、今後とも変わらぬご理解とご支援を心よりお願い申し上げます。

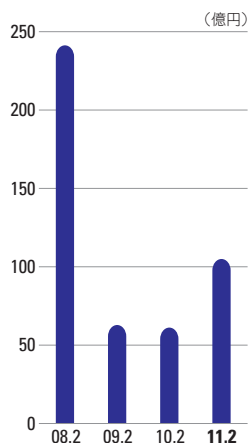
連結売上高



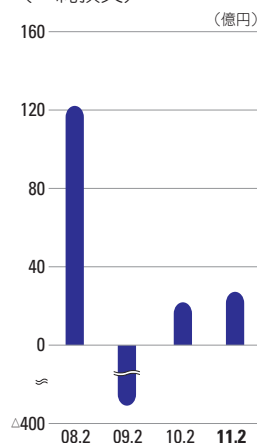
連結営業利益



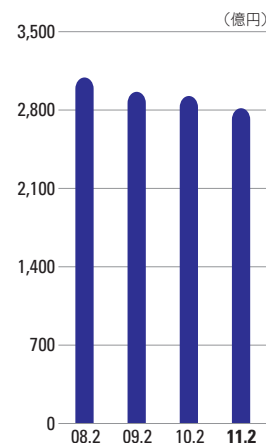
連結経常利益



連結当期純利益  
(△純損失)



連結総資産



(百万円)

	2008.2	2009.2	2010.2	2011.2
連結売上高	287,032	261,005	248,634	244,550
連結営業利益	18,628	9,084	4,383	8,928
連結経常利益	24,128	6,285	6,120	10,497
連結当期純利益(△純損失)	12,213	△30,895	2,187	2,722
連結総資産	309,092	296,282	292,568	281,642
連結純資産	197,639	158,418	158,164	158,744
連結1株当たり当期純利益(△純損失)(円)	76.53	△197.21	13.97	17.38



「23区」

## 事業環境と業績全般について

当連結会計年度におけるわが国経済は、政府の経済対策による消費刺激策や新興国の経済成長による需要拡大により、一部に景気回復の兆しが見られたものの、厳しい雇用情勢や所得環境、急激な円高や長引くデフレ経済などにより、景気の先行き不透明な状況が続きました。

当ファッションアパレル業界におきましては、秋以降から緩やかな回復の兆しが見られましたが、消費者の節約意識は依然として根強く、天候不順の影響もあり、全体的に個人消費が伸び悩む厳しい状況で推移いたしました。

このような経営環境のなか、当社グループは新成長戦略として、国内事業では収益性の高い基幹ブランドを中心に売場

投資、商品投入を積極的に行い収益拡大に努めました。また、海外事業では成長の要となる欧州地区の収益改善をさらに進めるとともに、アジア地区の事業拡大を加速させました。

これらの施策により、中核会社である株式会社オンワード樫山をはじめ、国内外の各子会社が全体として計画を上回る業績となりました。

### 第64期(2011年2月期)連結業績実績

売上高	2,445億 50百万円	(前期比 1.6%減)
営業利益	89億 28百万円	(前期比 103.7%増)
経常利益	104億 97百万円	(前期比 71.5%増)
当期純利益	27億 22百万円	(前期比 24.4%増)



「自由区」



「グレースコンチネンタル」

海外事業につきましては、欧州地区において、ジョゼフ、ジルサンダー両グループが、生産プラットホームの役割を持つジボ・コーグループとのシナジー効果により、収益の改善が進みました。また、アジア地区においては、市場の拡大を背景に計画どおりの成長がはかられ、合わせて北米地区の収益改善が順調に進みました。

#### ■アパレル関連事業

売上高	2,297億 50百万円	(前期比 1.9%減)
営業利益	89億 81百万円	(前期比 97.1%増)

## 事業セグメント別の概況

### ■アパレル関連事業

国内事業につきましては、株式会社オンワード樫山において、「ブランド軸経営」を基本戦略に、基幹ブランドを中心に「商品力」「販売力」「売場環境」を磨き上げることで「ブランド価値」を高め、さらに、ブランドを横断した戦略的アイテムの積極的展開と効果的な販売促進により売上拡大をはかりました。加えて、急成長するネット市場にも本格的に参入し、新規の会員獲得や商品提案力を強化したことにより計画を上回る成果を上げました。これらの施策により粗利益率が向上し、増益となりました。また、他の国内アパレル子会社においては、特に株式会社アイランドの業績が順調に推移し、収益拡大に寄与いたしました。



「ジョゼフ」

## ■その他の事業

サービス関連事業につきましては、商業施設の設計・施工事業の株式会社オンワードクリエイティブセンターは回復基調となりました。また、リゾート関連事業につきましては、計画どおりの改善が進みました。しかしながら、ファッション物流事業のアクロストラנסポート株式会社におきまして、業務委託先の減少ならびに原油高の影響により減益となりました。

## ■その他の事業

売上高	217億 94百万円 (前期比 2.8%増)
営業損失	1億 17百万円 (前期は39百万円の営業損失)



オンワードビーチリゾートグアム



アクロストラנסポート



「エアージャケット」

## 次期の見通し

次期の見通しにつきましては、円高や雇用・所得環境に対する先行き不安に加え、本年3月11日に発生いたしました「東日本大震災」により、想像を絶する甚大な被害と経済的な打撃を受けたことで、わが国経済は、当面厳しい状況が続くものと思われます。

当ファッションアパレル業界におきましても、震災とそれに起因する節電・計画停電などが、消費や経済活動へ悪影響をおよぼすことが予測されます。

このような経営環境のなか、当社グループは、グローバル

戦略を推進し、国内事業の安定的な収益確保と海外事業の積極的な収益拡大による成長戦略を推進してまいります。

国内事業につきましては、株式会社オンワード樫山におきまして、引き続き、基幹ブランドに経営資源を集中させ、ブランド価値を高めて収益拡大を推進してまいります。また、旗艦路面店の運営を強化し「ブランドの発信力」の向上と、ショッピングセンターモールにおける大型新規ブランド開発により売上拡大をはかってまいります。さらに、ネットビジネスはグローバルな視点からオンワードグループの総合力を活かし積極的に事業拡大を進めてまいります。

海外事業につきましては、欧州地区の各子会社の経営基盤が整い、グローバルな成長戦略を積極的に進めるステージに入りました。ジルサンダーグループでは、新たなライン



「ジル・サンダー ネイビー」

の「ジル・サンダー ネイビー」を2011年春からスタートし、今後さらに、ジボ・コーグループとのシナジー効果を高め、収益向上を実現させてまいります。アジア地区においても、生産・販売の両面から積極的な投資を行い、成長戦略を加速させてまいります。



「23区 GINZA」

#### 第65期(2012年2月期)連結業績予想

売上高	2,448億円(前期比 0.1%増)
営業利益	102億円(前期比 14.2%増)
経常利益	116億円(前期比 10.5%増)
当期純利益	35億円(前期比 28.6%増)

## 「23区」初のフラッグシップストア 「23区 GINZA」を銀座にオープン!



株式会社オンワード樫山は、基幹ブランド「23区」のアジアに向けた初のフラッグシップストアとして「23区 GINZA」を東京・銀座の中央通り沿いにオープンいたしました。

当社では経営の重点施策の一つとして、基幹ブランドの強化によるブランド価値の向上と売上拡大を推進しております。その一環として、基幹ブランドの中でも最大の売上規模を誇る「23区」において、国内を含むアジアに向けたフラッグシップストアであり、初となる路面店「23区 GINZA」を出店いたしました。

「23区」は、30歳前後の女性に向けたブランドとして1993年秋にデビューした当社のオリジナルブランドです。“TOKYOリアルクローズ”をコンセプトに、シンプル&ベーシックを基本としながら程よくトレンドを取り入れた高品質なウェアは高感度な女性達から高い支持を獲得し、現在では、百貨店向けレディスブランドでは国内最大規模のファッションブランドに成長いたしました。また、中国、台湾でも約60店舗を展開するなど、アジアに向けた日本を



代表するブランドの一つとなっております。

「23区 GINZA」では、“宿泊施設のないホテル”をイメージに、女性が心地よく過ごすための開放感あふれる空間と優れたサービスを提供してまいります。

2フロアからなる広い店内には、「23区」オリジナルの洋服・雑貨をはじめ、路面店限定のコレクションとして、インポートのセレクト雑貨やホームウェアの新ライン「HOTEL TWENTY THREE」を展開いたします。

また、ブランド初となる素材やディテールを自分仕様にカスタマイズできる、スーツ、シャツ、ベルトのパーソナルオーダーサービスも提供してまいります。

「23区」では、国内のみならずアジア各国からショッピングエリアとしての注目度が高い東京・銀座に路面店を構えることで、その世界観と魅力をアジア全域に向けて発信し、さらなるブランド価値の向上と新たな顧客の獲得により、既存ショップを含めたブランド全体の売上拡大をめざしてまいります。



## 「オンワード・カラー・キャンペーン」第三弾 「オンワード・ラブカラー・キャンペーン」を開催

株式会社オンワード樫山では、新たなカラーコンセプトを提唱するフランス人クリエイティブディレクターのジャン・ガブリエルコース氏とのコラボレーションにより、色そのものの美しさをファッションを通じて提案する「オンワード・カラー・キャンペーン」を昨年春から実施しております。

一回目の「オンワード・カラー・ミュージアム・キャンペーン」では、ゴッホ、ルノアールなどの印象派の画家達が生み出した豊かな色彩をファッションとして表現いたしました。



「カラー・ミュージアム」

二回目の「オンワード・アルプス ストレッチダウン・キャンペーン」では、美しいアルプスの景観から抽出したカラーでダウンアウターを完成させました。



「アルプス ストレッチダウン」



そして、三回目となる「オンワード・ラブカラー・キャンペーン」では、物事の価値が失われつつある現代に最も大切な「愛」をテーマに設定し、ラファエロやクリムトなどの「愛」を美しく描いた12の絵画に使われている、84色の美しい色彩を主要12ブランドのワンピースやブラウスなどに忠実に再現いたしました。

今後も「オンワード・カラー・キャンペーン」を継続し進化させていくことにより、価値ある商品と魅力的な仕掛けで売上拡大をはかってまいります。



## 環境経営への取り組み

環境活動を経営施策のひとつに掲げ、  
地球と人々の共生をめざしたチャレンジを続けております。

### オンワード・グリーン・キャンペーン

## 日本赤十字社と新たなタイアップをスタート 回収衣料から作る毛布や軍手を世界の被災地へ寄贈

当社は、“この地球<sup>ほし</sup>を想う。この服をまとう。”を環境コンセプトに掲げ、環境経営を推進しております。その一環として、当社が販売した衣料を百貨店の店頭で引き取り、可能な限りリサイクル、リユースすることを通じて、衣料品の循環システムの構築を目指す「オンワード・グリーン・キャンペーン」を2009年度よりスタートいたしました。

2010年度までの累計で、約64,788人のお客様に334,451点の衣料品をご提供いただき、リサイクル63%、リユース37%で活用いたしました。またリサイクルに関しては、回収衣料から毛布6,300枚、軍手121,080双を生産し、社会貢献活動に活用しております。

リサイクル製品に関しましては、今までは海外の難民キャンプを中心に寄贈してまいりましたが、2011年度からは、日本赤十字社と新たなタイアップをスタート。世界最大の人道支援機関である赤十字の国際的なネットワークを活用して、世界の被災地への緊急救援や復興支援のために、リサイクル毛布と軍手を寄贈してまいります。なお、2011年春にお引き取りした衣料から作るリサイクル毛布と軍手は、東日本大震災の被災地に寄贈する予定です。

連結貸借対照表

(百万円)

	前 期 2010年2月28日現在	当 期 2011年2月28日現在
<b>資産の部</b>		
<b>流動資産</b>	100,680	95,544
現金及び預金	34,330	30,939
受取手形及び売掛金	25,730	25,399
商品及び製品	27,179	25,738
原材料及び貯蔵品	2,549	3,364
仕掛品	1,165	1,254
繰延税金資産	4,238	4,074
その他の流動資産	6,348	5,497
貸倒引当金	△862	△723
<b>固定資産</b>	191,888	186,097
<b>有形固定資産</b>	89,741	86,622
建物及び構築物	28,295	25,531
土地	53,331	53,100
その他の有形固定資産	8,115	7,991
<b>無形固定資産</b>	50,811	46,745
のれん	47,417	43,731
その他の無形固定資産	3,393	3,013
<b>投資その他の資産</b>	51,335	52,729
投資有価証券	31,193	34,592
長期貸付金	4,969	4,839
長期前払費用	881	750
繰延税金資産	5,529	5,627
その他の投資	12,001	9,273
貸倒引当金	△3,240	△2,354
<b>資産合計</b>	292,568	281,642

(百万円)

	前 期 2010年2月28日現在	当 期 2011年2月28日現在
<b>負債の部</b>		
<b>流動負債</b>	90,929	82,677
支払手形及び買掛金	35,961	32,703
短期借入金	31,881	27,353
1年内返済予定長期借入金	3,816	3,533
1年内償還予定社債	204	151
未払費用	7,178	5,663
未払法人税等	4,085	4,533
未払消費税等	960	949
賞与引当金	1,568	1,568
役員賞与引当金	262	299
返品調整引当金	545	869
ポイント引当金	125	163
その他の流動負債	4,337	4,886
<b>固定負債</b>	43,475	40,220
社債	518	367
長期借入金	24,053	22,298
再評価に係る繰延税金負債	5,949	5,941
退職給付引当金	3,273	3,468
役員退職金引当金	122	119
その他の固定負債	9,558	8,026
<b>負債合計</b>	134,404	122,898
<b>純資産の部</b>		
<b>株主資本</b>	175,450	174,453
資本金	30,079	30,079
資本剰余金	50,043	50,043
利益剰余金	118,816	117,776
自己株式	△23,489	△23,445
<b>評価・換算差額等</b>	△18,949	△17,405
その他有価証券評価差額金	△5,559	△2,837
繰延ヘッジ損益	△42	△5
土地再評価差額金	△10,992	△11,003
為替換算調整勘定	△2,354	△3,557
新株予約権	412	532
少数株主持分	1,251	1,163
<b>純資産合計</b>	158,164	158,744
<b>負債及び純資産合計</b>	292,568	281,642

## 連結損益計算書

(百万円)

	前期	当期
	2009年3月1日から 2010年2月28日まで	2010年3月1日から 2011年2月28日まで
売上高	248,634	244,550
売上原価	134,458	128,725
売上総利益	114,176	115,825
販売費及び一般管理費	109,792	106,896
営業利益	4,383	8,928
営業外収益	4,667	4,165
営業外費用	2,929	2,597
経常利益	6,120	10,497
特別利益	2,419	486
特別損失	2,150	2,431
税金等調整前当期純利益	6,389	8,552
法人税、住民税及び事業税	4,016	5,555
法人税等調整額	157	153
少数株主利益	27	120
当期純利益	2,187	2,722

## 連結株主資本等変動計算書(2010年3月1日から2011年2月28日まで)

(百万円)

	株主資本					評価・換算差額等					新株 予約権	少数株主 持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本 合計	その他の有価証券 評価差額金	繰延ヘッジ 損益	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	評価・換算 差額等合計			
2010年2月28日残高	30,079	50,043	118,816	△23,489	175,450	△5,559	△42	△10,992	△2,354	△18,949	412	1,251	158,164
連結会計年度中の変動額													
剰余金の配当			△3,759		△3,759								△3,759
当期純利益			2,722		2,722								2,722
自己株式の取得				△29	△29								△29
自己株式の処分			△15	73	58								58
土地再評価差額金の取崩			10		10								10
非連結子会社の合併に伴う 剰余金の増加			2		2								2
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						2,721	36	△10	△1,202	1,544	119	△87	1,576
連結会計年度中の変動額合計	—	—	△1,039	43	△996	2,721	36	△10	△1,202	1,544	119	△87	580
2011年2月28日残高	30,079	50,043	117,776	△23,445	174,453	△2,837	△5	△11,003	△3,557	△17,405	532	1,163	158,744

会社の概要 (2011年2月28日現在)

社名	株式会社 <b>オンワードホールディングス</b> ONWARD HOLDINGS CO., LTD.
設立	昭和22年9月4日
資本金	300億79百万円
事業内容	純粹持株会社としてのアパレル、サービス、リゾート関連事業を営む傘下関係会社の経営管理およびそれに附帯する業務
従業員数	34名
所在地	東京都中央区日本橋3丁目10番5号
主要関係会社	株式会社オンワード樫山 オンワード商事株式会社 チャコット株式会社 株式会社クリエイティブヨーコ 株式会社アイランド* バスストップ株式会社 アクロストランスポート株式会社 株式会社オンワードクリエイティブセンター 株式会社ブックレット 株式会社オンワードライフデザインネットワーク 株式会社オーアンドケー ジョゼフLTD. シボ・コーS.P.A. シルサンダーイタリアS.P.A. フリードオブロンドンLTD. オンワードピーチリゾートグアムINC. J. プレスINC. 恩瓦徳時尚貿易 (中国) 有限公司

取締役および監査役 (2011年5月26日現在)

代表取締役会長	廣内 武
代表取締役社長	水野健太郎
代表取締役副社長	馬場和哉
専務取締役	吉沢正明
常務取締役	飯塚賢一
取締役	本庄八郎
取締役	中村嘉秀
常勤監査役	山本昭登
常勤監査役	青山 仁
監査役	矢部丈太郎
監査役	大橋一章

- (注) 1. 取締役 本庄八郎、中村嘉秀の両氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。  
2. 監査役 矢部丈太郎、大橋一章の両氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

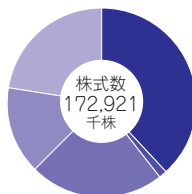
## 株式の状況(2011年2月28日現在)

発行可能株式総数	400,000,000株
発行済株式の総数	172,921,669株
株主数	10,741名

(注)発行済株式の総数には、自己株式16,238千株が含まれております。

## 所有者別株式分布状況

金融機関	66,022千株	38.2%	■
証券会社	2,428	1.4	■
その他の法人	39,901	23.1	■
外国法人等	25,742	14.9	■
個人・その他	38,828	22.4	■



(注)個人・その他には、自己株式が含まれております。

## 大株主(上位10社)

株主名	当社への出資状況	
	持株数	持株比率
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	9,453千株	6.0%
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	9,275	5.9
財団法人樺山奨学財団	8,710	5.5
日本生命保険相互会社	6,227	3.9
株式会社伊勢丹	5,001	3.1
第一生命保険株式会社	4,200	2.6
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	3,559	2.2
株式会社丸井グループ	3,417	2.1
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	3,274	2.0
株式会社三井住友銀行	2,931	1.8

(注) 1. 当社は自己株式16,238千株を保有しておりますが、上記の大株主から除いております。

2. 持株比率は、自己株式16,238千株を控除して計算しております。

## 株主メモ

事業年度	毎年3月1日から翌年2月末日まで	上場証券取引所	東京・大阪・名古屋証券取引所 市場第1部
基準日	定時株主総会 2月末日 期末配当金 2月末日	公告の方法	電子公告の方法により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じた場合は、日本経済新聞に掲載して行います。
定時株主総会	毎年5月中	公告掲載URL	<a href="http://www.onward-hd.co.jp/">http://www.onward-hd.co.jp/</a>
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社		
特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社		
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料)		



当冊子についてのお問い合わせ先

**株式会社 オンワードホールディングス**

〒103-8239 東京都中央区日本橋3-10-5

TEL.03-3272-2312



この報告書は環境に配慮した  
植物油インキを使用しています。